

1 ガイドラインの趣旨(対象)について

- ガイドラインの趣旨について、どう考えるか。
 - ・ 例えば、基本計画の重点課題「飲酒に伴うリスクに関する知識の普及と不適切な飲酒を防止する社会づくりを通じて、将来にわたるアルコール健康障害の発生を防止する。」を参考にすることが考えられるが、どうか。
- ガイドラインの対象について、どう考えるか。
 - ・ 基本計画において、「国民のそれぞれの状況に応じた適切な飲酒量・飲酒行動の判断に資するよう、飲酒量をはじめ、飲酒形態、年齢、性別、体質等によってどのようなリスクがあるか等」を示すこととされていることを踏まえ、ガイドラインの対象について、どう考えるか。

2 飲酒による人体への影響について

- 飲酒と人体の関係(良い・悪い影響等)を示すことについて、どのように考えるか。
 - ・ アルコールの代謝メカニズム、代謝酵素などを示すことについてどのように考えるか。専門的な内容について、わかりやすく表現するには、どのようにすることが考えられるか。
- 飲酒によるリスク等について、どのように示すことが考えられるか。
 - ・ 飲酒運転のような短期的リスクと長期的な疾病リスク(生活習慣病、肝疾患、がん等)などについて、どのように考えるか。
- 年齢、性別、体質(ALDH2欠損など)等に応じて個人差があることについて、どのように考えるか。

3 飲酒量について

- 飲酒量について、どのように示すことが考えられるか。
 - (参考) 健康日本21 (第二次)
生活習慣病のリスクを高める飲酒量 (1日あたり 男性40g以上 女性20g以上)
 - ・ 年齢、性別、体質(ALDH2欠損など)等に応じた飲酒量の記載について、それぞれどのように考えるか。
- 「休肝日」について、どのような取扱い・表現とするか。

4 避けるべき飲酒行動等について

- 避けるべき飲酒行動について、どのように考えるか。
 - ・ 車を運転する際や機械を使用する場合等の飲酒について、どのように考えるか。
 - ・ 不安・不眠などを目的とした飲酒について、どのように考えるか。
 - ・ 未成年や妊婦等の飲酒について、どのように考えるか。

5 飲酒に当たっての留意点について

- 飲酒するに当たって留意する点について、どのように考えるか。
 - ・ 日本の慣習等を踏まえた飲酒の際の留意点を示すことについて、どのように考えるか。
 - ・ 飲酒をする際に食事を一緒にとることなどについて、どのように考えるか。
 - ・ リスクとそれに対応した「実行しやすい行動」を示すことについて、どのように考えるか。

6 その他

- 全体として、分かりやすいものとするために、どのような工夫が必要か。(エビデンスなどの専門的内容と分かりやすさ・簡潔さなどとの両立をどのように考えるか。)
- エビデンスのあるものを基本的に記載することについて、どのように考えるか。(「休肝日」などエビデンスが不十分なものについてどのように扱うか。)